

科目名	危機管理論特殊研究	担当者	カワナカ ケイイチ 川中 敬一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、自らの関心事象の歴史的淵源と経緯を知ることによって、当該事象の推移の方向性を測る尺度を修得することを目的とする。</p> <p>1. 世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。【A-2:4】</p> <p>2. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。【A-3:4】</p> <p>3. 学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。【A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>意志決定者が、適切な情勢判断を実施するために、関心事象の歴史的分析方法を理解し、当該事象の推移の方向性を測る尺度を構築する能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 米国および中国における政治・経済・文化の統合的理念を説明する。(知識)</p> <p>2. 上記統合的理念成就プロセスにおける軍事の定位・機能を関連づける。(知識)</p> <p>3. 1. および2. によって得た尺度に基づき現実の現象の意義を測定する。(技能)</p> <p>4. 上記プロセスにより修得した尺度を常時点検し、精度向上に配慮する。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>1. 指定図書および参考図書の読書と課題答申草案を作成する。</p> <p>2. manaba folio のコレクション利用によるインタラクティブな個別指導を受ける。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>1. レポート作成を通じた米中両国の統合的理念の整理及び現象評価尺度の構築。(SB01. 及び2.)</p> <p>2. 自己が構築した尺度の適用による付与された現象の意義評価。(SB03.)</p> <p>3. 個別指導を通じた自己構築尺度の精度向上努力。(SB04.)</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1. 基本教材および参考資料読書：15時間 (レポート1編当たり)</p> <p>2. 自己強化尺度構築：15時間 (レポート1編当たり)</p> <p>3. 付与現象の意義評価：10時間 (レポート1編当たり)</p> <p>4. 尺度再構築・精度向上：5時間 (レポート1編当たり)</p>		
スケジュール	前期	<p>初稿提出期限： 7月 1日 00:00</p> <p>最終稿提出期限： 9月 19日 00:00</p>	
	後期	<p>初稿提出期限： 11月 1日 00:00</p> <p>最終稿提出期限： 1月 14日 00:00</p>	
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>① SB01. 及び2. を精度に関わらず明確に構築できているか。</p> <p>② 結論と結論を導出した過程が明確か。</p> <p>③ 引用・参照を適切かつ正確に記述したか。</p>
	観察評価(試験)	20%	<p>① 不明点を早期かつ素直に質問したか。</p> <p>② 指導に対する真摯な受容と積極的な再検討をしたか。</p> <p>③ 指定図書及び参考図書以外の資料も駆使したか。</p>
履修者への要望	<p>1. 国際政治関連を学ぶ学生とともに、経営・経済を学ぶ学生の履修を歓迎します。経営・経済と国際的枠組みとは無縁ではないことを知って頂きたいと思います。</p> <p>2. 基本教材と参考図書のみでは、課題に答申しきれないかもしれません。それゆえ、逐次、担当教員に必要な資料を問い合わせることを推奨します。</p> <p>3. 「講義概要」では記述しきれない細部については、履修後直ちに各学生に示達します。</p> <p>4. レポートは、読書と並行しながら作成することを推奨します。疑問が湧いた都度、担当教員に連絡してください。</p> <p>5. 履修登録と同時に、担当教員に履修を連絡してください。<a href="mailto:kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp">kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp</a></p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 麻田貞雄 教材名： 『マハン海上権力論集』（講談社、2010年）ISBN:978-4-06-292027-8/920円
	(1)米国の海外進出行動の理論的基盤であり、後年における日本との確執の萌芽を生み出したマハンによる海洋戦略思想と米国の発展方向を包括的に理解する上での必読書である。 (2)米国の建国以来の海外利権と、アジア(特に日本・中国)観を理解する上での必読書である。
参考図書	① 渡辺惣樹『日本開国』（草思社、2016年）/978-4-7942-2204-6/1,890円 ② 森孝一『宗教からよむ「アメリカ」』（講談社、1996年）/978-4-062-58070-0/1,944円 ③ 松岡完等『冷戦史』（同文館出版社）/4-49-546331-4/2,900円 ④ ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交50年』（岩波書店、2000年）/4-00-600030-8/1,100円 ⑤ アーネスト・メイ『歴史の教訓』（岩波書店、2004年）/4-00-600120-7/1,300円 ⑥ 末里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』丸善プラネット/2013年/ISBN：9788-4-86345-173-5/1,600円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 (1) 米国の建国理念が、国家建設過程において、いかに反映されてきたのか。 (2) マニフェスト・デスティニーという概念が、米国の対外史上の各現象において、どのように作用してきたのか。 (3) (1)と(2)の延長で、米国の不変的な対中国観及び対日本観の概要は、どのようなものであるか。 (4) (1)～(3)で得られる米国の不変構造の今日における意義は、どのようなものであるか。
レポート課題 1	「米国の対中姿勢における振幅の原因を米国の伝統的アジア観を基軸として考察せよ」 <b>留意点：</b> アジアける米国の究極的利益は何か、を中心として考察してください。
レポート課題 2	「第2次世界大戦という日米衝突の遠因を米国の歴史的アジア観察を基軸として考察せよ」 <b>留意点：</b> 日米の中国をめぐる利権争奪、という側面から考察してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 丸川哲史 教材名： 『中国ナショナリズム』（法律文化社、2015年）ISBN：978-4-589-03692-6/2,400円
	大陸と台湾という2大中華世界におけるナショナリズムを人文的・社会的歴史から解説している。中華世界指導層の理念と思考方式を理解する上での必読書である。
参考図書	① 横山宏章『中国の政治危機と伝統的支配』（研文出版、1996年）/4-87636-141-X/3,650円 ② 横山宏章『米中関係の歴史的展開』（研文出版、1992年）/4-87636-146-0/3,300円 ③ 丸川哲史『魯迅と毛沢東』（以文社、2010年）/978-4-7531-0278-5/2,800円 ④ ハインリッヒ・シュリーマン『シュリーマン旅行記 清国・日本』（講談社、1998年）/4-06-159325-0/800円 ⑤ 村井友秀『戦略論体系⑦毛沢東』（芙蓉書房出版、2004年）/4-8295-0308-4/3,800円 ⑥ 海洋政策研究財団『中国の海洋進出』（成山堂書店、2013年）ISBN：9778-4-425-53151-6/2,400円 ※中古のみ販売。担当教員所蔵貸し出し可。
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 (1) 近代中国各政権の理念における連続(不変)性と不連続(可変)性は何か。 (2) 中華世界指導層の不変的な国内統治観と対外姿勢とは、それぞれどのようなものか。 (3) (1)と(2)の延長にある近代中国革命の本質と、それが現在の国内外政治へ及ぼしている影響。 (4) (1)～(3)で得られる中華世界を基軸とした国際社会構造における日本の定位を考察する。
レポート課題 1	「中国の領土問題に関わる特殊性の形成の淵源を具体的に考察せよ」 <b>留意点：</b> 近代史における“天下”概念と台湾問題に留意して考察してください。
レポート課題 2	「日米による南シナ海問題への関与の意義を中国の立場から考察せよ」 <b>留意点：</b> 領土問題において中国が妥協可能と見なすか否かを基軸に考察してください。